

平成 20 年度病害虫発生予察特殊報第 4 号

平成 20 年 9 月 12 日

発表：福島県病害虫防除所

病害虫名 リンドウ黒斑病【*Alternaria alternata*】

寄主植物名（作物名） リンドウ

1 発生状況

平成 20 年 8 月に会津地方南部のリンドウほ場で、葉に輪紋状斑点を生じ、後に葉枯れや茎枯れ症状を確認した。病斑から病原菌を分離したところ、*Alternaria* 属菌が分離され、症状と分離菌から「リンドウ黒斑病」であると同定した。

本病は、平成 12 年に岩手県で初めて発生が確認され、平成 14 年に *Alternaria* 属菌による病害であることが報告されている。また、長野県でも発生が認められ、平成 19 年には特殊報が発表されている。

本県では平成 12 年頃から認められていたが、下葉での発生にとどまっておらず、採花部への病勢進展が見られず、実害には至っていなかった。本年は採花部にまで病勢が進展し、会津地方南部だけでなく中通り地方の北部及び中部でも被害が発生している。

なお、多発要因については、現在、気象経過等を解析中である。

2 病 徴

本病は、初め下葉に直径 5 mm 程度の褐色の小斑点が現れ、輪紋状に拡大する。後にこの病斑は葉の基部に達し、葉枯れを起こす。さらに病斑が茎に進展し、茎枯れ症状となる。本病の病斑は、葉枯病や灰色かび病と酷似しているため、注意が必要である。

3 伝染方法

本病の病原菌は、罹病残さ等で生存できる（越冬）。これが第一次伝染源となり、その後、病斑上に形成された分生子が風や雨滴により飛散し、葉表面の傷口等から感染する。

岩手県の報告によると、発病適温は 20 ～ 25 ℃ で、接種後 3 日目頃から病斑が見え始め、接種後 5 日目には大型病斑が形成される。

4 防除対策

防除は、下葉での発病を確認しだいクレソキシムメチル水和剤（発病初期、2,000 倍、3 回以内）またはメパニピリム水和剤（発病初期、2,000 倍、5 回以内）を散布する。特に強い風雨等があった場合には、速やかに予防散布を実施する。また、罹病株は通路等に放置せず、埋めるなど適切に処分する。

なお、本病の判別が困難な場合には、農業総合センター安全農業推進部（病害虫防除所）または生産環境部作物保護科に問い合わせてください。



図1 黒斑病の病徴
(左：株全体、右上：葉、右下：病徴が葉から茎に進展した様子)

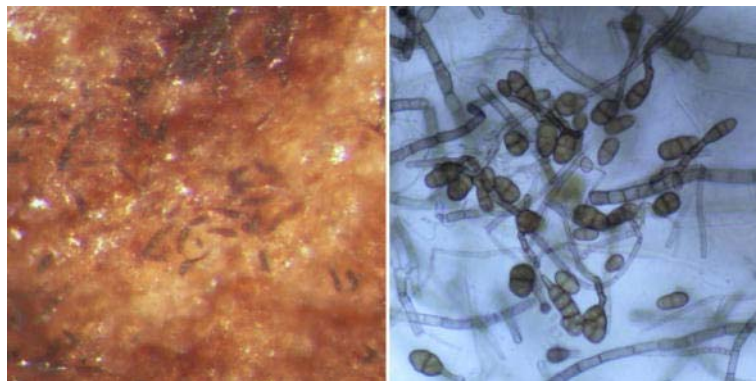


図2 病原菌 (左：実態顕微鏡写真、右：生物顕微鏡写真)